

貸借対照表

(平成28年2月20日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額		科 目	金 額	
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産		3,255,193	流動負債		702,313
現金及び預金		877,756	買掛金		274,914
売掛金		128,219	未払金		295,205
有価証券		523,444	未払住民税等		49,401
商品		1,512,038	賞与引当金		25,426
前払費用		57,748	店舗閉鎖損失引当金		6,627
未収入金		114,344	資産除去債務		32,289
その他		41,643	その他		18,447
固定資産		2,703,569	固定負債		510,128
有形固定資産		—	資産除去債務		400,005
建物	1,963,791		長期前受収益		91,930
減価償却累計額及び減損損失累計額	△1,963,791	—	その他		18,192
構築物	144,357		負債合計		1,212,441
減価償却累計額及び減損損失累計額	△144,357	—	(純資産の部)		
車両運搬具	1,264		株主資本		4,745,924
減価償却累計額及び減損損失累計額	△1,264	—	資本金		2,015,812
工具、器具及び備品	993,589		資本剰余金		2,125,434
減価償却累計額及び減損損失累計額	△993,589	—	資本準備金		2,125,434
投資その他の資産		2,703,569	利益剰余金		1,865,028
投資有価証券		1,107,868	利益準備金		134,089
敷金及び保証金		1,587,531	その他利益剰余金		1,730,939
長期未収入金		171,580	別途積立金		2,000,000
その他		8,169	繰越利益剰余金		△269,060
貸倒引当金		△171,580	自己株式		△1,260,351
			評価・換算差額等		397
			その他有価証券評価差額金		397
資産合計		5,958,762	純資産合計		4,746,321
			負債・純資産合計		5,958,762

損益計算書

(自 平成27年 2月21日 至 平成28年 2月20日)

(単位：千円)

科 目	金 額	額
売 上 高		9,308,178
売 上 原 価		5,105,521
売 上 総 利 益		4,202,656
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		4,865,890
営 業 損 失 (△)		△663,234
営 業 外 収 益		
有 価 証 券 利 息	17,242	
受 取 賃 貸 料	21,524	
営 業 補 償 金	12,000	
そ の 他	8,983	59,749
営 業 外 費 用		
為 替 差 損	2,855	
賃 貸 費 用	21,480	
そ の 他	1,473	25,809
経 常 損 失 (△)		△629,293
特 別 利 益		
違 約 金 収 入	312,000	312,000
特 別 損 失		
減 損 損 失	176,946	
店 舗 閉 鎖 損 失	3,465	
店 舗 閉 鎖 損 失 引 当 金 繰 入 額	6,627	187,039
税 引 前 当 期 純 損 失 (△)		△504,333
住 民 税	43,182	
法 人 税 等 調 整 額	△674	42,508
当 期 純 損 失 (△)		△546,841

株主資本等変動計算書

(自 平成27年 2月21日 至 平成28年 2月20日)

(単位：千円)

	株 主 資 本								
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金				自己株式	株主資本 合 計
		資 本 準 備 金	資 本 剰 余 金 合 計	利 益 準 備 金	その他利益剰余金		利 益 剰 余 金 合 計		
					別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金			
当期首残高	2,015,812	2,125,434	2,125,434	134,089	2,000,000	277,781	2,411,870	△1,260,065	5,293,051
当期変動額									
当期純損失(△)						△546,841	△546,841		△546,841
自己株式の取得								△286	△286
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	△546,841	△546,841	△286	△547,127
当期末残高	2,015,812	2,125,434	2,125,434	134,089	2,000,000	△269,060	1,865,028	△1,260,351	4,745,924

	評価・換算差額等			純 資 産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△519	1,833	1,313	5,294,364
当期変動額				
当期純損失(△)				△546,841
自己株式の取得				△286
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	917	△1,833	△915	△915
当期変動額合計	917	△1,833	△915	△548,043
当期末残高	397	-	397	4,746,321

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

なお、取得価額と債券金額との差額が金利の調整と認められるものについては、償却原価法によっております。

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品

移動平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(附属設備を除く)は定額法、その他の有形固定資産については、定率法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 6～18年

工具、器具及び備品 5～10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 長期前払費用

均等償却

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(3) 店舗閉鎖損失引当金

店舗退店に伴い発生する損失に備えるため、退店関連損失見込額を計上しております。

4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の処理

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、振当処理の要件を充たす場合には、振当処理を採用しております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段……………為替予約

ヘッジ対象……………外貨建予定取引

③ ヘッジ方針

為替予約は、輸入仕入等に係る為替変動リスクを軽減する目的で、外貨建予定取引の決済に必要な範囲内で行っております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動を比較し、両者の変動額を基礎にして判断しております。

(2) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(3) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更に関する注記)

前事業年度において区分掲記しておりました「未払費用」は、金額的重要性が乏しくなったため表示方法を見直し、「その他」に含めて表示しております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 担保に供している資産の内容は次のとおりであります。

現金及び預金(定期預金) (注)

42,000千円

(注) 銀行信用状発行の担保に供しております。

2. 監査役に対する金銭債務

7,262千円

監査役に対する金銭債務は、将来の退任時に支給する退職慰労金に係る債務であります。

(損益計算書に関する注記)

1. 営業補償金

店舗が入居しているビルの建替えに伴う営業補償金であります。

2. 違約金収入

当社が出店を予定していたビルにおいて、貸主側から賃貸借予約契約解除の申し入れがあり、これを受けたことに伴うものであります。

3. 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上しております。

(単位：千円)

都道府県	用途	種類	減損損失
東京都 神奈川県等	店舗	建物	117,655
		工具、器具及び備品	47,810
		その他	5,531
		計	170,997
東京都	共用 資産	建物	708
		ソフトウェア	4,010
		その他	1,229
		計	5,949
合 計			176,946

資産のグルーピングは、継続的に損益の把握を行っている店舗単位とし、本部設備等を共用資産としております。全社の収益性が低下したことを受け、店舗及び共用資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(176,946千円)として計上いたしました。当該資産の回収可能価額は使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるため回収可能価額は零として評価しております。

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当事業年度末における発行済株式の種類及び数

普通株式

12,651,466株

2. 当事業年度末における自己株式の種類及び数
 普通株式 1,726,701株
 自己株式の株式数は、単元未満株式の買取により1,096株増加しております。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産（流動）

賞与引当金 8,416千円

たな卸資産評価損 20,308千円

その他 15,654千円

繰延税金資産（流動）小計 44,378千円

評価性引当額 △44,378千円

繰延税金資産（流動）合計 ー千円

繰延税金資産（固定）

減損損失 192,822千円

貸倒引当金 55,488千円

資産除去債務 140,049千円

繰越欠損金 2,379,960千円

その他 7,860千円

繰延税金資産（固定）小計 2,776,182千円

評価性引当額 △2,776,182千円

繰延税金資産（固定）合計 ー千円

繰延税金資産合計 ー千円

繰延税金負債（固定）

その他有価証券評価差額金 189千円

繰延税金負債（固定）合計 189千円

繰延税金負債の純額 189千円

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

設備計画に照らして、必要な資金を常に確保しております。一時的な余資は流動性の高い金融資産で運用しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び未収入金は、取引先等の信用リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及びその他有価証券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。敷金及び保証金は主に新規出店時に係る契約先への預け入れ、また長期未収入金は退店した店舗の未返還の敷金及び保証金であり、契約先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び未払金は、1年以内の支払期日であります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクを軽減することを目的とした先物為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「重要な会計方針に係る事項に関する注記 4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項 (1) ヘッジ会計の処理」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 市場リスク(金利等の変動リスク)の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、内部管理規程に従い、担当部署が決裁担当者の承認を得て、実需の範囲内で行っております。

② 信用リスク(取引先の契約不履行に係るリスク)の管理

売掛金及び未収入金については、取引先の信用状況を監視するとともに、取引先ごとの債権残高を随時把握することによってリスクの軽減を図っております。

敷金及び保証金並びに長期未収入金については、差入先の信用状況を定期的に監視することを通じて、リスクの軽減を図っております。

デリバティブ取引については、取引先相手を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

③ 流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画表を作成・更新するとともに、手元流動性を維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成28年2月20日(当事業年度の決算日)における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。(注2)参照)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	877,756	877,756	—
(2) 売掛金	128,219	128,219	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	1,124,561	1,126,647	2,086
その他有価証券	500,660	500,660	—
(4) 未収入金	114,344	114,344	—
(5) 敷金及び保証金	1,587,531	1,587,112	△418
(6) 長期未収入金	171,580		
貸倒引当金(※)	△171,580		
	—	—	—
資産計	4,333,071	4,334,739	1,667
(1) 買掛金	274,914	274,914	—
(2) 未払金	295,205	295,205	—
(3) 未払住民税等	49,401	49,401	—
負債計	619,521	619,521	—

(※) 長期未収入金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金、(4) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

取引金融機関から提示された価格によっております。なお、有価証券及び投資有価証券は満期保有目的の債券及びその他有価証券として保有しております。

(5) 敷金及び保証金

返還予定時期に基づき、合理的に見積った将来キャッシュ・フローをその期間に応じた無リスクの利率で割り引いた現在価値によっております。

(6) 長期未収入金

回収見込額に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 未払金、(3) 未払住民税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
投資事業有限責任組合への出資	6,091

上記金融商品については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(資産除去債務に関する注記)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

店舗、本社事務所及び倉庫の建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から10年と見積り、割引率は当該使用見込期間に見合う国債の流通利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	456,949千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	8,916千円
時の経過による調整額	1,821千円
資産除去債務の履行による減少額	<u>△35,392千円</u>
期末残高	432,295千円

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額	434円46銭
2. 1株当たり当期純損失(△)	△50円05銭